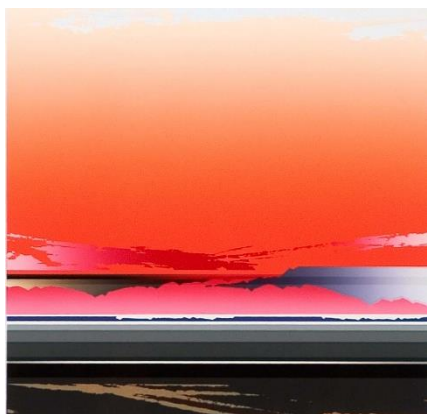


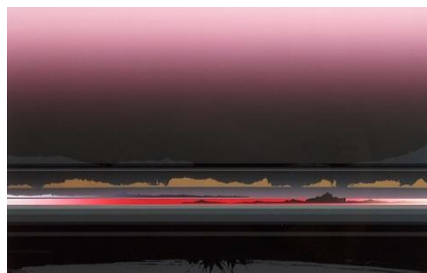
[SCENERY] 空の景・宙の景

沢田哲郎×一原有徳

2025. 2.8^{sat} - 6.15^{sun}



沢田哲郎 REFRESHING (1) 1994 セリグラフ



沢田哲郎 AFTER GLOW 1987 セリグラフ



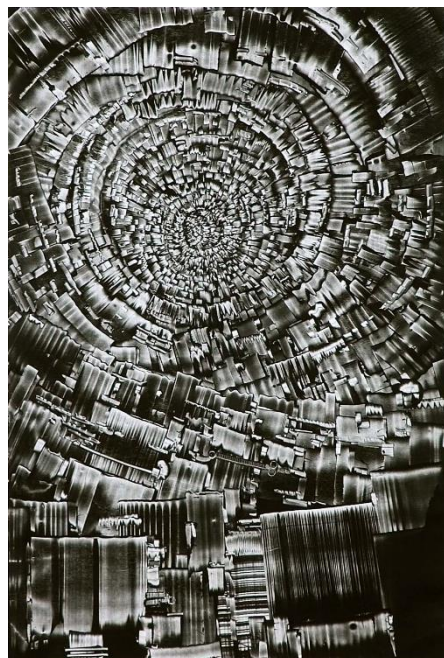
沢田哲郎 UNTITLED (空) 1986 セリグラフ



沢田哲郎 構成 1955-56 油彩



一原有徳 ZUN(1) モノタイプ



一原有徳 Tan2(a) モノタイプ

沢田哲郎 (1935-1998) は、武蔵野美術大学在学中に健康を損ね北海道に帰郷し、アンフォルメルの影響を受けながら、道内公募展でデビューを飾りました。1967年、南米サンパウロでの個展が成功し、海外で日系大企業の目に留まりました。日本企業の海外進出とともに沢田の作品も南北アメリカ、カナダで人気を集めます。飛行機の上空から見た空の景に由来する「SKY SCAPE」は、初めは刷毛を用いて色の帯を平行に連ねた油彩の抽象作品でした。1974年からセリグラフに本格的に取り組み、その美しいグラデーションを版画で表現することに成功し、画面下部には雲や島影を思わせる不規則な凹凸の矩形が現れました。

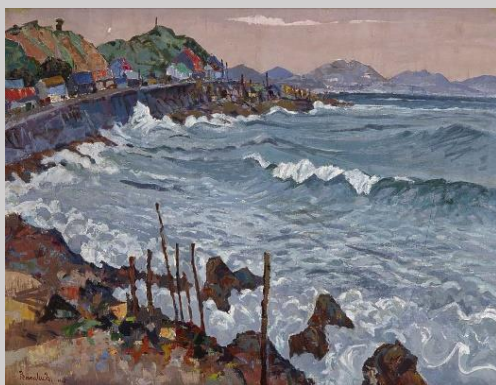
一方、一原有徳 (1910-2010) が1959年に発見したモノタイプは、漆黒の闇と遠近法的な収縮で構成されることから SF 的世界に例えられ、「ABSTRACT LANDSCAPE」(評論家・中原祐介) と呼ばれました。

本展は、世界的に活躍した小樽ゆかりの版画家、沢田哲郎と一原有徳の「抽象的な風景」を展覧するものです。沢田も一原も何かの象徴ではなく、純粹に抽象表現を目指していましたが、私たちは自身の記憶や経験によって、彼らの作品から何らかの風景的なイメージを喚起させられます。

季節や時間帯によって変化する空の色を思わせる沢田哲郎のセリグラフ、無機質な冷たい闇の空間や宇宙を思わせる一原有徳のモノタイプ。それぞれを対比しつつ、彼らの独自の版画表現をご堪能ください。

観覧料：一般 600 (480) 円
高校生・市内高齢者 300 (240) 円
中学生以下無料

※中村善策記念ホール、2階特別展も併せてご覧いただけます。()内は20名以上の団体料金
※4月26日以降は、特別展料金の変更にともない、一般 700 (560) 円、高校生市内高齢者 350 (280) 円、中学生以下無料となります。



中村善策 白い磯浜 1964年



中村善策 1901-1983

同時開催 中村善策記念ホール
小樽の色、
ことばの小樽
中村善策と小樽風景

市立小樽美術館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 tel 0134-34-0035